

エ 研究成果 (課題研究)

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (必修科目)		担当教員	各専攻 教員-	
対象年次	研究科 1 年 研究科 2 年		期 別	令和 8 年度 2 か年通年	
単 位 数	4 単位	講義： 単位	時 間 数	1 2 0 時間	
		実習： 4 単位			
授業の目的 及び概要	調査対象作物・家畜の栽培飼養管理や実験、調査の課題を設定し、自らがやるべきことを考え、適時に調査を行う能力、集計する能力、分析、評価する能力を養う。また、その成果をまとめて効果的な発表を行う能力を身に付けることを目標とする。				
授業の到達 目標	課題を設定し、研究を通して必要データを収集し、科学的な解析能力を身に付ける。また、得られた結果を分かりやすい形でまとめる能力を身に付ける。				
授業の方法	実習形式 (ほ場での指導)				
授業内容				講義	実習
	次の 11 専攻教室に所属し、その専攻教員の指導により専門的な実習に取り組む。 1 作物専攻教室 2 露地野菜専攻教室 3 施設野菜専攻教室 4 果樹専攻教室 5 花卉専攻教室 6 畜産専攻教室 7 生物工学専攻教室 8 病害虫専攻教室 9 土壌肥料専攻教室 10 食品加工専攻教室 11 情報経営専攻教室				
テキスト	各専攻教室 必要により資料提供				
成績評価 の方法	各専攻教室 必要により資料提供				
備 考					

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） （作物）（必修科目）		担当教員	藤井 雄樹 太田 和也
対象年次	研究科 1 年 研究科 2 年		期 別	令和 8 年度 2 か年通年
単 位 数	4 単位	講義： 単位	時 間 数	1 2 0 時間
		実習： 4 単位		
授業の目的 及び概要	水稲、麦、マメ類、イモ類などの代表的な食用作物について、課題を設定し、栽培を行う。それにより作物の生理生態の知識を応用し、課題解決のための調査・研究を行い、科学的な解析手法を学ぶ。さらに発表を通じ、資料作成や情報収集、プレゼンテーション能力を養う。			
授業の到達 目標	課題を設定し、作物栽培を通して必要データを収集し、科学的な解析能力を身に付ける。また、得られた結果を分かりやすい形でまとめる能力を身に付け、やや応用的な内容も学ぶ。			
授業の方法	実習形式（ほ場での指導、実験室での分析操作、教室での解析）			
授業内容			講義	実習
	1 課題の設定 2 試験設計立案（品目、内容の検討） 3 試験区設定 4 試験栽培 5 調査、データの収集 （環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病虫害発生状況等） 6 調査結果のまとめ、分析 7 パネル作成と展示（毎年 11 月中旬） 8 課題研究発表会（研究科 1 年 5 月、2 月、 研究科 2 年 10 月、12 月） 9 課題研究提出（研究科 2 年 2 月）			15 15 15 15 15 15 15 15
テキスト	適宜資料を配布する			
成績評価 の方法	研究課題（40%）、課題研究発表会（40%）、取り組む姿勢（20%）、			
備 考	参考図書 「作物栽培の基礎」（社団法人農山漁村文化協会） 「稲作標準技術体系」・「麦作標準技術体系」・「大豆標準技術体系」・ 「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議） 「農作物病虫害雑草防除指針」・「主要農作物等施肥基準等」 （千葉県農林水産部環境農業推進課）			

授業科目 (履修区分)	研究成果（露地野菜） (必修科目)		担当教員	山下 雅大 池邊 慧祐	
対象年次	研究科1年 研究科2年		期 別	令和8年度 2か年通年	
単位数	4単位	講義： 単位 実習： 4単位	時間数	120時間	
授業の目的 及び概要	自身の知識や経験から露地野菜に関する課題を設定し、栽培計画を作成する。課題に基づいた調査・研究を行い、問題解決学習の一環として観察力や生育調査による科学的な分析力を学び、研究成果としてまとめて発表する。				
授業の到達 目標	1 露地野菜経営における課題解決能力の向上 2 プロジェクト活動を通じたコミュニケーション力や栽培に必要な観察力や判断力の習得				
授業の方法					
授業内容				講義	実習
	1 課題の設定 2 試験設計立案（品目、内容の検討） 3 試験区設定 4 試験栽培 5 調査、データの収集、知見 （気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病害虫発生状況等） 6 調査結果のまとめ、分析 7 パネル展示 8 計画・中間・公開発表会（研究科1年5月、2月、研究科2年10月、12月） 9 研究成果提出（研究科2年2月）				10 10 30 30 20 10 10
テキスト	適宜資料を配布				
成績評価 の方法	取り組む姿勢（40%）、発表会（30%）、研究成果（30%）				
備 考	参考図書：「野菜栽培の基礎」（社団法人 農山漁村文化協会）、「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）、「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」（千葉県農林水産部環境農業推進課）				

授業科目 (履修区分)	研究成果(課題研究) (施設野菜)(必修科目)		担当教員	江口 菜 江澤 和哉
対象年次	研究科1年 研究科2年		期 別	令和8年度 2か年通年
単位数	4単位	講義： 単位 実習： 4単位	時間数	120時間
授業の目的 及び概要	施設野菜経営における課題を把握し、自ら課題を設定し、栽培計画を作成する。計画に基づいた調査・研究を行い、観察力や生育調査による科学的な分析力を学ぶ。論文としてまとめ、報告することで、課題解決の手法を学び、実践力を養う。			
授業の到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設野菜の生理生態や栽培の基礎及び出荷調製技術等を理解する。</li> <li>課題研究の課題を設定し、栽培計画を作成、課題に基づいた調査・研究を行い、観察力や生育調査による科学的な分析力を学び、研究成果(課題研究)としてまとめる。</li> </ul>			
授業の方法	農場での実習及び現地視察			
授業内容			講義	実習
	1 課題の設定 2 試験設計立案(作物の選定、内容の検討) 3 試験区設定 4 試験栽培・研究 5 調査、データの収集、知見 (気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、 病虫害発生状況等) 6 調査結果のまとめ、分析(研究科2年) 7 パネル展示 8 研究成果(課題研究)発表会(12月上旬) 9 研究成果(課題研究)提出(1月中下旬) 10 研究成果(課題研究)・進路報告(2月中旬)			4 4 4 28 12 32 4 8 20 4
テキスト				
成績評価 の方法	取り組む姿勢(60%)、研究成果(20%)、発表会(10%)、パネル展示(10%)			
備 考	参考図書「野菜栽培の基礎」(農文協)、「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議)、「農作物病虫害雑草防除指針」(千葉県農林水産部安全農業推進課)、「主要農作物等施肥基準」(千葉県農林水産部安全農業推進課)			

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） （果樹園芸）（必修科目）		担当教員	吉田 明広 井上 雄樹		
対象年次	研究科 1 年 研究科 2 年		期 別	令和 8 年度 2 か年通年		
単 位 数	4 単位	講義： 単位 実習： 4 単位	時 間 数	1 2 0 時間		
授業の目的 及び概要	果樹における地域や自らの経営における課題を把握し、計画書を作成する。作成した計画に取り組むことで課題解決の手法を学び、実践力を養う。					
授業の到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実験計画法を理解する。</li> <li>・ 適切な調査方法や調査規模の考え方を理解する。</li> <li>・ 適切なデータの収集方法、分析方法を理解する。</li> <li>・ 地域や自らの経営の課題の解決策を提示する。</li> </ul>					
授業の方法	農場での実習及び現地視察					
授業内容				講義	実習	
	1 課題の設定					6
	2 試験設計立案（作物の選定、内容の検討）					6
	3 試験区設定					6
	4 試験栽培・研究					50
	5 調査、データの収集、知見 （気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、 病虫害発生状況等）					23
	6 調査結果のまとめ、分析					12
	7 パネル展示					1
	8 研究成果（課題研究）発表会（12 月上旬）					10
	9 研究成果（課題研究）提出（1 月中下旬）					1
	10 研究成果（課題研究）・進路報告（2 月中旬）					5
テキスト	各自の研究内容に適した資料を配付する。					
成績評価 の方法	取り組む姿勢（調査ノート含む）（60%）、研究成果（20%）、研究成果発表会（10%）、社稷祭パネル展示（10%）					
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員の定める各提出物の締め切りを遵守すること。</li> <li>・ 雨天時を除き、実習時間中に成果の執筆作業は行わない。</li> </ul> 参考図書 各品目の標準技術体系（千葉県）、「農作物病虫害雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準」（千葉県農林水産部環境農業推進課）					

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） （花き園芸）（必修科目）		担当教員	田川 和泉 永山 春菜 田川 真子
対象年次	研究科 1 年 研究科 2 年		期 別	令和 8 年度 2 か年通年
単 位 数	4 単位	講義： 単位	時 間 数	1 2 0 時間
		実習： 4 単位		
授業の目的 及び概要	<p>課題研究対象の花きの栽培管理、開花調節技術を習得することに加え、自分で考えて課題を進め、問題解決する能力を養成することを目的とする。</p> <p>研究成果作成及び発表にあたり、データの取りまとめや発表会資料の作成を行うことにより発表方法を学び対外的な説明能力を養う。</p>			
授業の到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 花きの栽培管理や開花調節技術を習得する。</li> <li>・ 自ら課題を設定して、進行計画を作成できる。</li> <li>・ 課題に基づいた調査やデータの取りまとめ方法を習得する。</li> <li>・ 分かりやすい発表方法を習得する。</li> </ul>			
授業の方法	実習			
授業内容			講義	実習
	1 課題の設定 2 試験設計立案（作物の選定、内容の検討） 3 試験区設定 4 試験栽培・研究 5 調査、データの収集、知見 （気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、 病害虫発生状況等） 6 調査結果のまとめ、分析（研究科 2 年） 7 パネル展示 8 研究成果（課題研究）発表会（12 月上旬） 9 研究成果（課題研究）提出（1 月中下旬） 10 研究成果（課題研究）・進路報告（2 月中旬）			4 4 4 4 0 3 0 3 0 2 2 2 2
テキスト	「草花栽培の基礎」「花卉園芸学の基礎」「花の小事典」「農業技術体系」（社団法人農山漁村文化協会）			
成績評価 の方法	取組み姿勢、研究成果、発表会、パネル展示			
備 考				

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） （畜産）（必修科目）		担当教員	伊藤 香葉 吉田 早希
対象年次	研究科1年・2年		期 別	令和8年度 2か年通年
単位数	4単位	講義： 単位 実習： 4単位	時間数	120時間
授業の目的 及び概要	畜産の生産管理や高度な繁殖技術及び出荷調整技術等を理解する。 課題研究の作成に当たっては、自ら情報収集し、課題設定を行い、畜産 生産計画を作成する。これに伴って、課題に基づいた調査・研究を行い、 問題解決学習の一環として観察力や発育調査による科学的な分析力を学 び、課題研究としてまとめる。			
授業の到達 目標	1 畜産の生産管理と高度な繁殖技術等の習得 2 課題を設定し、調査・分析を行い、調査結果をまとめて研究成果とし て提出する。			
授業の方法	農場での実習を実施する			
授業内容			講義	実習
	1 情報収集 2 課題の設定 3 試験設計立案（品目、内容の検討） 4 試験区設定 5 試験栽培 6 調査、データの収集、知見 （畜舎・環境条件、飼料分析、生育・肥育・品質調査・伝 染病の把握と病気疾病等の発生状況） 7 調査結果のまとめ、分析 8 パネル展示 9 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬） 10 研究成果（課題研究）提出（1月） 11 研究成果（課題研究）進路報告（2月）			4 4 4 4 23 23 23 4 4 23 4
テキスト	「家畜飼育の基礎」阿部亮他（農山漁村文化協会/2008）			
成績評価 の方法	評価配分は以下の通りとする。 ○出席態度：60% ○課題研究：20% ○発表会：10% ○パネル展示：10%			
備 考	参考図書 日本飼養標準（中央畜産会/乳牛 2017、肉用牛 2022、豚 2013、家禽 2011） 日本標準飼料成分表（中央畜産会/2009） 千葉県畜産総合センター研究報告書			

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） （生物工学）（必修科目）		担当教員	中田 菜々子	
対象年次	研究科 1 年 研究科 2 年		期 別	令和 8 年度 2 か年通年	
単 位 数	4 単位	講義： 単位	時 間 数	1 2 0 時間	
		実習： 4 単位			
授業の目的 及び概要	農業における生物工学分野の課題について自ら考え解決する能力を養う。 得られたデータを解析し考察することに努め、研究成果を説明する能力を 向上させる。				
授業の到達 目標	課題の設定方法、実験計画の立て方、データのとり方とまとめ方、研究成 果の発表方法を理解し実践する。				
授業の方法	実習形式				
授業内容				講義	実習
	1 課題の設定				10
	2 調査及び実験計画立案				20
	3 試験区設定				20
	4 実験データの取り方とまとめ方				50
	5 研究成果（課題研究）発表会				20
	6 研究成果（課題研究）提出				
	7 研究成果（課題研究）・進路報告				
テキスト	各自の研究内容に適した資料及び論文を配付する。				
成績評価 の方法	取り組む姿勢（60%）、報告書（40%）				
備 考					

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） （病害虫）（必修科目）		担当教員	清水 敏夫
対象年次	研究科 1 年 研究科 2 年		期 別	令和 8 年度 2 か年通年
単 位 数	4 単位	講義： 単位 実習： 4 単位	時 間 数	1 2 0 時間
授業の目的 及び概要	病害虫に関する知識の向上と研究手法の習得を図るとともに、成果の取りまとめに関する能力を醸成する。 研究成果の作成にあたっては、課題を設定し、研究計画を立てる。課題に対応した調査・研究を行い、結果を適切に解析することにより、科学的な分析力を習得し、研究成果（課題研究）を論文としてまとめる。			
授業の到達 目標	現地の課題に沿った課題設定を行い、栽培や事例調査等を通じて必要データを収集、データ分析を行い、研究成果としてまとめる。			
授業の方法	実習及び現地視察、プレゼン資料の作成、発表会での成果報告			
授業内容			講義	実習
	1 課題の設定			4
	2 試験設計立案（品目、内容等の検討）			4
	3 試験区設定			4
	4 試験実施			28
	5 調査、データの収集、知見の蓄積 （病害虫及び天敵の発生状況、環境条件、生育・収量・品質調査等）			20
	6 調査結果のまとめ、分析			24
	7 パネル展示（社稷祭）			4
	8 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬）			16
	9 研究成果（課題研究）提出（1月中下旬）			12
	10 研究成果（課題研究）・進路報告（2月中旬）			4
テキスト	各自の研究内容に適した資料及び論文を配付する。			
成績評価 の方法	取り組む姿勢（60%）、報告書（40%）			
備 考				

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） （土壌肥料）（必修科目）		担当教員	高田 伯約
対象年次	研究科 1 年 研究科 2 年		期 別	令和 8 年度 2 か年通年
単 位 数	4 単位	講義： 単位	時 間 数	1 2 0 時間
		実習： 4 単位		
授業の目的 及び概要	土壌管理及び環境に配慮した農業経営における課題を把握し、自らの課題研究を作成し、計画的に取り組むことで課題解決の手法を学び、実践力を養う。			
授業の到達 目標	課題内容に基づいた適切な調査方法の考え方や設定方法を理解し、実践する。得られたデータを科学的に分析し、論理的な文章となるよう研究成果（課題研究）をまとめる。			
授業の方法	農場での実習及び現地視察			
授業内容			講義	実習
	1 対象作物・肥料等及び課題の設定 2 試験設計（材料及び方法、調査項目の検討） 3 試験栽培 4 栽培管理及び調査、データの収集 （環境条件、土壌分析（化学性、物理性、地温等）、 生育・収量調査、病害虫発生状況等） 5 調査結果のまとめ、分析（研究科 2 年） 6 パネル展示 7 研究成果（課題研究）発表会（12 月上旬） 8 研究成果（課題研究）提出（1 月中下旬） 9 研究成果（課題研究）・進路報告（2 月中旬）			10 5 40 25  15 5 10 5 5
テキスト				
成績評価 の方法	取り組む姿勢（60%）、研究成果（20%）、発表会（10%）、パネル展示（10%）			
備 考	参考図書 「農業技術体系」、「土と施肥の新技术」、「みんなの有機農業技術大辞典」（社団法人 農山漁村文化協会） 「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議） 「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」（千葉県農林水産部環境農業推進課）			

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） （食品加工）（必修科目）		担当教員	宮城美紀子
対象年次	研究科 1 年 研究科 2 年		期 別	令和 8 年度 2 か年通期
単 位 数	4 単位	講義： 単位 実習： 4 単位	時 間 数	1 2 0 時間
授業の目的 及び概要	農業経営の多角化や、6次産業化の事例や課題に対応した取り組みを行う。研究課題の作成に当たっては、課題を設定し、進行計画を作成する。課題に基づいて調査・研究を行い、農産物に付加価値をつけ農業生産者が実際に活用できる手法を検討し、実施、評価し、まとめる。これらを通じて経営者や指導者に必要な課題解決力を養う。			
授業の到達 目標	現場の課題に沿った課題設定を行い、栽培や事例調査等を通じて必要データを収集、データ分析を行い、研究成果としてまとめる。			
授業の方法	圃場や現地での調査、プレゼン資料の作成、発表会での成果報告			
授業内容				講義
				実習
	1	課題の設定		4
	2	試験設計立案（品目選定、調査内容の検討）		4
	3	試験区設定		4
	4	試験栽培・研究		28
	5	調査、データの収集、知見 （収量・品質調査、売上、費用、損益分岐点、アンケート結果集計 等）		12
	6	調査結果のまとめ、分析（研究科 2 年）		8
	7	パネル展示（社稷祭）		4
	8	研究成果（課題研究）発表会（12 月上旬）		32
	9	研究成果（課題研究）提出（1 月中下旬）		20
	10	研究成果（課題研究）・進路報告（2 月中旬）		4
テキスト	各自の調査内容に関係する図書及び文献を適宜配布する			
成績評価 の方法	取り組み姿勢（60%）、研究成果（20%）、発表会（10%）、パネル展示（10%）			
備 考	適宜資料配布 「食品製造」（実教出版） 「新食品成分表」（東邦出版） 「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）			

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (情報経営)（必修科目）		担当教員	菅澤 太地
対象年次	研究科 1 年 研究科 2 年		期 別	令和 8 年度 2 か年通期
単 位 数	4 単位	講義： 単位 実習： 4 単位	時 間 数	1 2 0 時間
授業の目的 及び概要	課題設定、調査手法、分析方法を理解し、パソコン操作によるデータ集計と考察・評価を取りまとめる。これらを通じて経営者や指導者に必要な課題解決力を養う。			
授業の到達 目標	現場の課題に沿った課題設定を行い、栽培や事例調査等を通じて必要データを収集、データ分析を行い、研究成果としてまとめる。			
授業の方法	圃場や現地での調査、プレゼン資料の作成、発表会での成果報告			
授業内容			講義	実習
	1 課題の設定			4
	2 試験設計立案（品目選定、調査内容の検討）			4
	3 試験区設定			4
	4 試験栽培・研究			28
	5 調査、データの収集、知見 (収量・品質調査、売上、費用、損益分岐点、アンケート結果集計 等)			12
	6 調査結果のまとめ、分析（研究科 2 年）			8
	7 パネル展示（社稷祭）			4
	8 研究成果（課題研究）発表会（12 月上旬）			32
	9 研究成果（課題研究）提出（1 月中下旬）			20
10 研究成果（課題研究）・進路報告（2 月中旬）			4	
テキスト	各自の調査内容に関係する図書及び文献を適宜配布する			
成績評価 の方法	取り組み姿勢（60%）、研究成果（20%）、発表会（10%）、パネル展示（10%）			
備 考	参考図書：「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議） 「農作物病害虫雑草防除指針」「主要農作物等施肥基準」 (千葉県農林水産部環境農業推進課) 「野菜経営収支試算表」（千葉県農林水産技術会議）			